

# 磯根漁場における藻場の回復手法に関する研究

研究部

## 背景、目的

ワカメやアラメなどの海藻が繁茂する藻場は、アワビやサザエの成育場であり、海の環境を保全する機能も持っています。筑前海では一部海藻の減少が見られる場所があるため、主要な減少要因とされる海藻食のウニや巻貝の駆除による藻場の回復手法について検討しました。

## 成果の概要

### (1) ウニ、巻貝の駆除効果（地島）

30m四方の試験区内のウニや巻貝を駆除すると、1年後には藻場が回復しました。しかし、7年後には再びウニや巻貝が増え、海藻は減少しており、継続的な駆除が必要であることがわかりました。

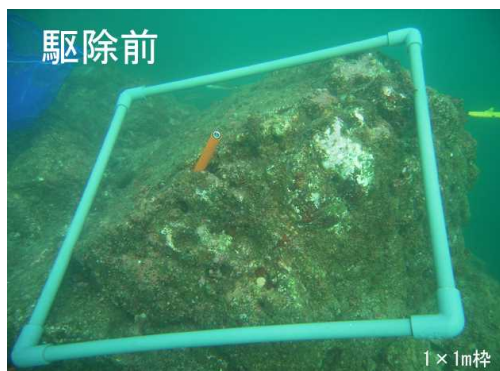
駆除区域内の海藻とウニ類、巻貝類の現存量

	駆除前	駆除1年後	駆除7年後
海藻 (g/m <sup>2</sup> )	72	2,683	560
海藻を食べる生物			
ウニ類 (g/m <sup>2</sup> )	396	105	757
巻貝類	173	260	115
合計	569	365	872



### (2) ガンガゼ類の駆除効果（大島）

南方系のウニで食用にならないガンガゼ類を駆除したところ、駆除5ヵ月後にはワカメなどの海藻が増え、駆除16ヵ月後にはアラメの着生が確認でき、今後の藻場の回復が期待されます。



現在、各地先で漁業者による駆除が始まっています。藻場の維持・回復を図るには、定期的、効率的にウニ類の駆除を実施することが重要です。